

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 4
2016. 8

TOPICS

1

本学法務研究科が九州大学法科大学院と教育連携協定を締結

本学大学院法務研究科(岡山大学法科大学院)は7月29日、九州大学法科大学院(福岡市)と教育連携協定を締結しました。本協定は、地域貢献という方向性を同じくする両法科大学院が、学部との接続教育、法科大学院における法曹養成教育、法曹に対する継続教育の各局面において教育連携を行うものです。このことにより、各法科大学院の教育力の一層の向上及び地域連携の促進を図り、優れた法律実務家の養成及び地域貢献に資することを目的としています。

本学で行われた調印式には、九州大学法科大学院より村上裕章院長、堀野出副院長、本学法科大学院より、神例康博研究科長、佐藤吾郎副研究科長、西田和弘副研究科長が出席。村上院長と神例研究科長が協定書に署名し、教育連携協定を締結しました。締結後、村上院長は「手を携えて、互いに切磋琢磨していきたい」、神例研究科長は「地域貢献という同じ理念をもつ大学どうし、互いに長所を補完しあって教育力を高めていきたい」とそれぞれ抱負を述べました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5967.html

岡山大学スーパーグローバル大学創成支援(SGU)事業取組状況説明会を開催

TOPICS

2



本学は8月1日、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援(SGU)」事業支援の対象に選定された本学の構想「PRIMEプログラム:世界で活躍できる『実践人』を育成する!」の実施状況について、取組状況説明会を開催しました。

森田潔学長のあいさつ、谷口秀夫理事、阿部宏史理事、許南浩理事、荒木勝理事らによる事業実施内容等の説明のあと、山本洋子グローバル・パートナーズセンター長を加えて質疑応答を行いました。約160人が参加して活発な意見交換が行われ、森田学長は「100年の歴史を踏まえ、大学としての価値をしっかりと見据え、今後100年の歴史に耐えうるような大学を作っていくことが我々の使命である」と述べました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5982.html

最近の大学の取組

日本経済新聞に本学を紹介



時代の一步先へ、知を究める。



進化する岡山大学

岡山大学は160年の歴史をもち、11学部、77研究科、15研究科、大学院、附属学校を擁する総合型私立大学です。国産初の総合型私立大学の歴史を、主体的に受け継ぎ、教育・研究・社会貢献を通じて、社会に貢献する私立岡山大学の歴史を築いていきます。岡山大学は、2016年度の研究力強化を推進し、国際的な競争力を持つ総合型私立大学を目指してまいります。

岡山大学
<http://www.okayama-u.ac.jp>

本学は、文部科学省が設けた国立大学の3つの枠組みのうち、「主として、卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に世界で卓越した教育、研究、社会実装を推進する取り組みを第3期の機能強化の中核とする国立大学」を選択しています。

平成28年4月1日に、異分野基礎科学研究所を新設、惑星物質研究所を改組拡充設置し、倉敷の資源植物科学研究所と合わせた3つの研究所を有する大学となりました。

今後も、特色ある研究力を強化していきます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id371.html

TOPICS

3

ストライプインターナショナル 石川代表取締役社長を招き、役員招聘特別講演会を開催

本学は8月26日、株式会社ストライプインターナショナルの石川 康晴代表取締役社長を招き、役員招聘特別講演会「ストライププロジェクトにおけるユニバーシティプロジェクト」を開催。役員や部局長、教職員ら約60人が聴講しました。

石川氏は、著名な建築家を起用した公共施設設置により新たな岡山、日本のランドマークを目指す Art project, 市街地活性化のための City project, 起業家精神をもった人材育成を目指す University project の三者で「岡山」・「岡山大学」をブランドにするストライププロジェクト構想について、動画を交えて講演しました。講演後の質疑応答では、起業家育成のための組織開発などに関する質疑があり、活発な意見交換を行いました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6035.html



ヨット部に新たな救助艇 進水式を挙げる

TOPICS

4

本学と本学ヨット部は7月27日、同部OB会等からの支援を受けて購入した救助艇「ALBATROSS IV」の進水式を、同部の活動拠点がある牛窓ヨットハーバー（岡山県瀬戸内市）で挙行了しました。

式にはOB会の玉岡晋会長や、一般財団法人岡山県牛窓海洋スポーツ振興会の有吉茂事務局長、森田潔学長、許南浩理事・副学長（教育担当）、同部の八木康徳副主将（経済学部4年）ら約30人が出席。森田学長が「進水式を迎えることができたことは、OBの皆様のヨット部にかける大きな期待と熱意の証だと感じている。大学を代表して感謝申し上げます」と御礼の言葉を述べ、玉岡会長に感謝状を贈呈しました。

救助艇は練習やレースなどを安全に行うために必要で、機動力を生かした支援や救助ができます。進水式後の試乗では、関係者が乗船し、湾内を一周して機動力を確かめました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5983.html



RESEARCH HIGHLIGHTS

1

タンパク質合成を光で制御する新技術を開発 狙ったタイミングと場所に合成を誘導

岡山大学大学院自然科学研究科（工）の大槻高史教授、渡邊和則助教らの研究グループは、「ケージドアミノアシル tRNA」という光応答性の化合物を開発するとともに、これを用いてタンパク質合成を光で制御する新技術を開発しました。本技術では、光により、狙ったタイミング、狙った位置に、特定のタンパク質の合成を誘導することが可能です。本研究成果は8月17日（英国時間午前10時）、英国の科学雑誌「Nature Communications」で公開されました。

実際の生物においても、時空間的なタンパク質合成の制御は絶えず起こっており、重要な役割をしています。たとえば動物が生まれてから体が形成される過程（発生過程）には、必要なタイミングで局所的に合成されるタンパク質が多数関わっています。

今回開発した光依存的なタンパク質合成技術は、発生過程や神経伝達など「タンパク質合成の時空間的制御」の関わる生命現象の解明につながる事が期待されます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id409.html

